

伊達 広報

発行日 令和8年7月10日
発行者 伊達地区小学校長会
会長 渡邊 かおり
編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》

願 い・・・



伊達地区小学校長会会長
渡邊 かおり
(伊達市立伊達東小学校)

校長の役割

学校教育法第37条第4項に「校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する」とある。当然のように理解していると思っていた言葉であったが、かつて事務職員は「従事する」とされ、平成29年の改訂で「つかさどる」となったことを主査からの復命で知り、改めて「つかさどる」の意味を調べた。

校長は、専門性をもって校務について自ら管理し、責任を持って処理する役割をもっている。

はたして自分はどうだろうか。かつてお世話になった教育長が「教育者である限り、実践者であれ。俺は、教育を向上させる方略を常に考え続けている」とおっしゃった。社会や地域が求める教育、教職員を守るためにできること…など、様々な情報の収集や学校課題への対応を日々学んでいるつもりではあるが、それ以上に社会変化が速く、校長に求められる専門性が広がっている。学校経営よりも運営に要する時間が多く、自己の戦略を構築する精神的かつ身体的ゆとりが少なくなったと感じる(わたしのキャパシティが狭くなったのかもしれない…)

校長会の役割

全国連合小学校長会の活動方針に、「つながり・学び・国に声を届ける」の3つが活動の意義として掲げられている。建前でなく、校長同士のつながりが「悩みがあっても校長を孤立させない。一人では考えられない納得解が校長会の学びにはある。一人で挙げられない声も集団で伝え、実現させることが

できる」ことに救いを感じる。歴代の先輩達が築いてきた、市町を超え、ともに悩み合い・学び合い・物申す校長会であったことが、居心地のよい伊達地区校長会の歴史になってきたのだと思う。

校長の働き甲斐

校長の超過勤務・休日出勤は大きな課題である。6月研修会の講話「働き方改革・学校経営ビジョンの実現について」において、「働きやすさだけではなく働き甲斐がないと学校は崩壊する」と話が合った。改革を阻害する6つの枷・組織の3つのズレなど、講話内容に共感した校長がとても多かった。

校長としての働き甲斐を考えた時、わたしは東日本大震災の中で学校を守り抜いた先輩達を思い出す。被災し避難した子供達に学びを保障しようと、県内各地を回り約3ヶ月で工場施設を学校へと創り変え、子供達を笑顔で受け入れた先輩。学びが共有できなければ学校の歴史が途切れると必死に行政に働きかけ、間借りした校舎をいつも見回り、温かな声をかけながら児童そして教職員をつないだ先輩…。

子供達の学びの保障が多くの人々に落ち着きと安心を与えること、巣立った子供達が我が地域の発展に寄与していることなど、多くの先輩たちが「校長の働き甲斐」を示してくれた。

わたしはこの一年が、この伊達地区校長会だからこそ会員全員が「つながり・学び・声を届ける」活動を通して、校長の「働き甲斐」を追い求められる一年になってくれることを願いたい。



《 提 言 》

次期学習指導要領改訂を見据えた学校経営

国見町教育委員会教育長 石 幡 良 子

伊達地区の各小学校において、校長先生方の強力なリーダーシップのもと、地域に根ざした特色ある教育活動が創意工夫をもって展開されていますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。予測困難な激動の時代にあって、子どもたちが未来を生き抜く力を育む学校の役割は、ますますその重要性を増しています。

現在、国においては、次期学習指導要領の改訂に向けた本格的な議論が進められています。今回の改訂案で見据えられているのは、これまでの

「生きる力」や「主体的・対話的で深い学び」の確実な定着を基盤としつつ、急速に進展するDXやGXといった社会の構造転換、さらには生成AIをはじめとする高度技術革新に主体的に対応できる人材の育成です。子どもたちが自ら課題を見つけ、多角的に探究し、多様な他者と協働しながら新たな価値を創造していく。そのような資質・能力を、日々の教育課程の中でいかに具現化していくかが、私たちに課せられた大きな命題です。

この新たな教育改革を真に実効性のあるものとするため、校長先生方には以下の3つの視点を持った学校経営を求めます。

1 「探究的な学び」を軸とした教育課程の不断のマネジメント

これからの学びは、単なる知識の習得に留まりません。地域社会や現実の課題と結びついた児童がワクワクするような探究活動を学校の教育活動全体に位置付けていただきたいのです。

ICTの日常的な利活用をさらに一歩進め、

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させながら、子どもの知的好奇心と批判的思考力を揺さぶる授業改善を推進してくだ

さい。

2 「地域とともにある学校づくり」の深化

伊達地区には、豊かな自然や歴史、そして温かい住民のみなさまという、かけがえのない教育資源が存在します。次期学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、地域や多様な専門機関と強く結びつくことが不可欠です。コミュニティ・スクールを核とした熟議を重ね、地域社会全体で子どもを育む持続可能なネットワークを、校長先生方のビジョンによってさらに強固なものにしていくください。

3 「教職員のウェルビーイングの向上」と組織力の最大化

「教育の質は教師の質を越えられない」と言われます。新たな改訂に柔軟に対応し、子どもたちに笑顔で向き合うためには、教職員一人一人が心身ともに健康であり、同僚性を発揮して学び合える環境が不可欠です。働き方改革を「教育の質を高めるための構造転換」と捉え、改革できる業務は果敢に精査し、全職員が一丸となって教育の本質に注力できる活力ある職場環境を整備してください。

教育の「不易と流行」を見極め、学校の羅針盤として未来への明確な指針を示すことこそが校長の使命です。伊達地区の未来を担う宝である子どもたちのために、校長先生方が先頭に立ち、情熱と確信を持って新たな挑戦の一步を踏み出されることを期待しております。共に手を取り合い、伊達の教育の新たな地平を切り拓いてまいりましょう。

《新 会 員 よ り》

伝統を創る



本校は、創立150周年の節目に新校舎が竣工し、これから新しい伝統を創り上げようとしている学校です。現在、児童数は558名でみんな元気いっぱい学習に励んでいます。

4月に着任し、毎日元気な子どもたちに癒やされながらも右往左往し、意欲的に教育活動に取り組む先生方に触発され、よりよい学校経営とは何かを模索しながら仕事に励んでいます。

元来中学校での勤務が長かったため、多少の文

伊達市立伊達小学校長 佐藤 智晃

化の違いに戸惑いましたが、子どもを中心として教育活動を展開し、「自立」を促していく点は、小学校も中学校も同じだと感じています。

「汝、何のために其処に在り也。」教育行政の仕事をしているときに上司からいただいた言葉ですが、どこで仕事をしていてもこの言葉を大切にしてきました。

自分がこの学校の歴史に何を残すことができるか、先人の残した「由学」の精神を大事にしつつ、子どもたちと一緒に新たな伝統を創っていきたいと思います。

「三気の松」に見守られ



本校は自然豊かな緑に囲まれ、愛宕の丘に佇む校舎からは半田山や信達平野を一望することができます。今年度、創立154年を迎える歴史と伝統ある堰本小学校に赴任し、その

職責の重さに身の引き締まる思いです。

地域では「せきもとのさとづくり推進協議会」を中心に、各種団体が緊密に連携した活動が展開されており、学校を支えてくださる皆様の熱意を強く実感しております。

伊達市立堰本小学校長 新野賢一郎

校庭で子どもたちを温かく見守るシンボル「三気の松」には、「元気・本気・根気」という人生を拓く目標と願いが込められています。本校ではこの「三気」に「勇氣」を加えた四つの気を運営ビジョンに掲げ、「新堰本魂」として日々の学びを深めております。

歴代の校長先生方が築かれた堰本小学校の教育を大切に継承・発展させ、職責を果たしていきたいと思います。新会員として至らぬ点多々ございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

小規模校の課題をやりがいに、一丸となって進む学校経営

伊達市立小国小学校長 齋藤 知宣



児童数7名の柳津町立西山小学校から、23名の伊達市立小国小学校に赴任しました。前任校に比べ児童数は増えたものの、本校も小規模校であり、これまでの経験を生かしてがんば

りたいと考えています。小規模校には特有の課題があります。その一つが複式での授業です。複式学級は、教員が二つの学年を行き来する「わたり・ずらし」の授業が基本です。さらに実技教科でもAB年度の教育課程を組めず、同

一時間・同一教室で二学年同時に授業を行う必要があります。先生方の負担を減らすため、校長も分科を受け持たざるを得ない状況です。しかし、実際に教壇に立つことで、授業の難しさと楽しさを改めて実感することができています。今後は、この経験を教員への指導や支援に生かしていく考えです。その他にも小規模校ならではの大変さがありますが、それらをやりがいに変え、子どもたちのために8名の教職員と一丸となって学校経営に邁進していきます。ご指導よろしくお願いいたします。

伊達地区に恩返し



教頭時代に、堰本小学校と醸芳小学校に勤務させていただきました。仕えた校長先生方には、管理職の職責について学びました。また、コロナ禍で、どのように教育活動を動かすか

について、伊達地区教頭会で、話し合ったことを覚えています。この時に、横のつながりが大事なことを、改めて感じました。

そして、校長昇任考査は、伊達地区で受けました。当時の教職員研修講座は、とても手厚いもの

子ども達のために



昨年度末の人事異動により、伝統ある桑折町立伊達崎小学校の校長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

本校は、桑折町のシンボル半田山を望み、周囲には四季折々の豊かな実りをもたらす、桃をはじめとする果樹園が広がる、自然の恵みに満ちた美しい環境にあります。この素晴らしい地域に見守られながら、子どもたちは素直に、そして逞しく「になりたい自分へ笑顔でチャレンジ」をスローガンに、日々の活動

「子ども時代の育ちと学びをつなぐ ～月館に根ざした教育を目指して～」



本校は、令和2年に、小手小・月館小・月館中が統合し、地域の温かな期待を背負って誕生した、小中一貫教育の学校です。今年、開校7年目となりました。月館の豊かな自然と地域の人材を活かした「ふるさと教育」を軸に、架け橋期も含め幼小中

10年間を見通したカリキュラムにより、子供達が豊かに学びをつなげ生かしていくことを目指しています。

また、子供達にとって学校が本当の意味での「居

桑折町立半田醸芳小学校長 長澤 敏行

で、校長先生方に準備していただいた資料も豊富で、予想問題がピッタリ当たったことに、とても感謝しております。面接指導も、ビシビシやっただきました。お陰様で、校長昇任できました。

つまり、私の管理職の礎は、伊達地区で育てられたと言っても過言ではありません。

その伊達地区に戻ってすることができましたので、恩返しのつもりで、伊達地区の子どもたちの健やかな成長と、校長会を盛り上げるために尽力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

桑折町立伊達崎小学校長 山下 嘉寿夫

に胸を膨らませて学んでおります。

この歴史ある伊達崎の地で、子どもたち一人一人の可能性の芽を大切に育み、ますます活力と温かさに満ちた学校にできるよう、本校の教職員、家庭、地域と共に全力を尽くしたいと考えております。

力不足ではございますが、伊達地区校長会の皆様のご指導とご鞭撻をいただきながら、地域の教育振興のために、そして何より、目の前の子どもの「未来・笑顔」のために、少しでも貢献できるよう邁進してまいります。

伊達市立月館学園小学校長 米屋 真由美

場所」となるよう「月館学園版 WellBeing」により、「ふるさとを愛し 未来を拓く 人間性豊かで 心身ともにたくましい児童生徒の育成」を進めていきたいと思っています。

「子どもたちよ、子ども時代をしっかりと楽しんでください。大人になってから、老人になってから、あなたを支えてくれるのは子ども時代のあなたです。(石井桃子)」子供達にとって、10年後、20年後、月館学園で過ごした9年間の一人一人の心の中にあり一人一人をしっかり支えていますように。校長会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

【編集後記】 新しく6名の会員をお迎えし、令和8年度伊達地区小学校長会がスタートしました。ご多用の中、ご寄稿いただきました国見町教育委員会教育長様、地区小中学校長協議会長、各校長先生方に感謝申し上げます。学校を取り巻く課題が複雑化する昨今、だからこそ校長会としての「つながり」を緊密にし、力を携えていきましょう。